

12/25以降メール等による問合せ（市民の声・ホームページへお問合せ等） **16名**

<問合せ内容>

●（仮称）みどりの南小学校・みどりの南中学校に関すること **16名****1. 通学距離・増加による児童の負担増から反対意見**

- ・ 通学に係る負担は、同心円から求められる直線距離で判断するのではなく、指針に示されているように、実際の「通学距離、通学時間」を考慮すべきである。
- ・ みどりの中央はみどりの南に行く場合、学校を見ながら通う子、安全な通学路で登校の場合かなり遠回りになる子、そして両方とも登校時間が五倍にのびる。
- ・ こんなに近くに住んでいるこのみどりの中央を出すことをやめていただきたい
- ・ みどりの中央地区が分断され、家から徒歩10分以内という近隣に義務教育学校がありながらも遠い新設学校通学区域にされているあり得ない状況に断固反対し、再検討を要望します。
- ・ 徒歩1時間もかかるような学校に子供を通わせることになるのは到底納得できません
- ・ 家からすぐ近くにみどりの学園義務教育学校があるにも関わらず、その何倍も遠い学校へ通わせるのは子どもへの身体的、精神的な負担が大きすぎるように思います。
- ・ すぐ近くの学校に通えずわざわざ遠くの学校まで通わないといけない状況をどうか作らないで下さい。
- ・ みどりの学園義務教育学校に通うのと、新しく建設予定の学校に通うのとではあまりに差がありすぎます。
- ・ これでは通学に1日に50分、9年間分の大切な子供の時間を奪われてしまいます。みどりの学園義務教育学校に通わせられることを目的に2年前に戸建てを購入し移住して来ました。
- ・ 新設校の学区に割り振られているみどりの中央にもみどりの学園を見ながら通過して新設校に行かなくてははいけない
- ・ 子どもの安全や、身体的、精神的な負担と通学にかかる時間を考えて学区を区切る、建設予定地を考えるなど、再検討してほしい。

2. みどりの中央地区を分割に対する意見

- ・ 我が家はみどりの学園の裏口まで徒歩3分のところにあります。みどりの学園と同じみどりの中央の住所に居を構えています。近所のお友達と学校が離れてしまいます。
- ・ 学校の過密化解消ももちろん大切で大きな問題ですが、そのためにみどりの中央50番台以降が人柱にされるのは悲しい限りです
- ・ 地域住民の分断に繋がる方法ではなく、しなやかな対応をお願いしたい。
- ・ みどりの中央の町内間も雰囲気かなり悪いです。1番安全に通える場所にすむ場所なのに子どものことを考えてちゃんとした線引きをしてください
- ・ みどりの中央の分断は避けていただきたい
- ・ 区割りについては、町名ごとで分ける方がいいと考えましたのでそれを基本としました。とありますが、どうしてみどりのではこの考え方でないのでしょうか

3. 新設校建設予定地に関する意見

- ・ 環境問題、特に高速道路周辺の大気汚染の実証的研究（※）を紹介して、現計画地が学校建設地として不適切であることを示す。
- ・ 土地がないのなら、同じ敷地に小中一貫である必要はなく、みどりの地区内や県用地にこだわらず、陣場やその他近隣の土地、民間の土地を探して、急いで用地交渉してください。

4. 通学路整備、スクールバスに関する意見・要望

- ・ 新設校は工業地帯のため、大型トラック等の走行があり、危険な場所が多い。通学路についても、地域の特性をよく考慮してほしい。

5. 新設校追加に関する意見・要望

- ・ 1校当たりの児童生徒数を1000人以下に抑えなければならない。従ってピーク時には、単純計算で、小学校が3校、中学校が2校なければならない。そのうちの小学校1校と中学校1校は、みどりの学園義務教育校とすると、あとの小学校2校、中学校1校の新設が必要である。
- ・ そもそも学校がもう1つないと、子供が溢れすぎて話にならない
- ・ これからのつくばの子供たちに、負担をかけず良い教育を与えるため、もう1校学校を作ってください。
- ・ もう1つ学校をつくれれば、みどりの中央の分割問題、谷田部小学校の教室不足問題、みどりの学園やみどりの南小学校の過大校問題、すべて解決します。
- ・ この地域の両校の児童生徒数は適正規模を超える事は明らかである。そのことを試算しておきながら対策を怠っているのはなぜか。あと小学校2校、中学校1校の新設が必要な状況で、小学校1校と中学校1校の現計画は完全に破綻しているので再検討すべきです。
- ・ 新設校をもう1つ作らないと学校が足りないのは明らかで、既に指摘されている。学区の線引きを話し合う以前の問題で、素案は一度白紙に戻すべき。
- ・ 更なる新設校については、みどりの外も含め、民間の土地でも、近隣の土地の取得交渉を速やかに進めるべき。小中一貫にこだわる必要は無い。土地が足りないのなら小中別々で良い。
- ・ 更なる新設校が令和7年以降になろうとも、今すぐやらないと、ますます遅くなる。
- ・ 小学校建設をすればみどりの学園のみずほ問題、2丁目問題に加え陣場も通えます。谷田部小の増築問題も改善に向かうのではないのでしょうか。
- ・ みどりの学園、みどりの南の2校ではどう考えても足りないのが明らかとしますので、3校目を新設することを前提として審議を行ってほしいです。
- ・ 分割後も過大規模校になることについて言及され、事務局も認識しているのであれば、さらに新たな学校を作る必要がある。陣場地区などの別の地域についても具体的な検討案を示して欲しい。また、別の地域を検討している進捗状況も説明して欲しい。

6. その他

- ・ 審議会で全く話し合えていない。このまま、当初の日程通り答申をまとめて住民説明会を開くのは、あまりに強行すぎる。
- ・ 小中一貫校ということにこだわらず、これだけクラス数が増え続けてしまうのであれば小中学校を分けるのも検討した方がいいのではないのでしょうか
- ・ 本年度学区審議会における更なる新設校の議論は凍結すること

(理由)

みどりの南校(仮)の学区審議会で審議する事項ではないため。現審議委員がみどりの中央の住民であり、中央に寄った意見が目立ち、2丁目をはじめ、更なる新設校の対象(候補)地の住民の意見がまったく吸い上げられていません。本来本審議会で議論すべき通学路の安全性や新設校周辺環境整備に関する議論が全く進んでいないことも気がかりです。

- ・ 本年度審議会での答申は更なる新設校がない前提でのものとする

(理由)

令和6年までの解決から逆算すると、まずはみどりの南校(南)のみの新設という大前提ですみやかに学区を設定し、開校準備体制を整える必要があるため。開校時期に遅れは地域全体にとって大きな不利益です。

- ・ 教育局内で更なる新設校建設を検討する際には、みどりの2丁目を真瀬小・高山中や谷田部小・谷田部中の学区に組み入れないこと。みどりの中央の方々が今上げている声と同様、2丁目住民も、通学距離や通学の安全の問題があるこれら中学校への編入は大反対です。
- ・ これから増える2丁目のためにみどりの中央が犠牲になる意味がわかりません。
- ・ みどりの中央一同がみどりの南小ではなく、みどりの学園にして欲しいと言えばみどりの学園の学区となるという考え方なのではないか

(※) 紹介文献 高速道路周辺における粒子状物質の分布と多環芳香族化合物に関する研究 滋賀医科大学保健管理学教室 喜多 義邦(第1報)粒子状物質の汚染現況 日衛誌,42,973- 984(1987) (第2報) 粒子状物質の拡散性状日衛誌,43,1042-1052 (1988). (第3報)多環芳香族化合物の汚染現況と距離減衰について日衛誌,44,673-684 (1989)

本研究は、名神高速道路端より、60,120,290,420m離れた地点の大気中に含まれるPM2.5などの浮遊粒子状物質や発癌性を有する多環芳香族化合物を定量したものであり、その濃度は道路端からの距離と相関していることを明らかにしている。120mまでは環境基準を超える数値が多く、多くの物質で観察されている。30年前の研究成果であり、当時と車の排ガス規制が異なるが、本研究では日当たりの通行量が5万台なのに対して、常磐道の現在の通行量は日当たり20万台を超えているので（[https://www.nexco.co.jp/activity/word_data/data/h30_month.html]）、喜多らの研究結果は現在でも有効と考えられる。] 浮遊粒子状物質は喘息などの呼吸器疾患（環境省レポート [<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=13826>]）[、多環芳香族化合物は長期暴露によりさまざまな癌を誘発することが知られているので、児童生徒の健康に及ぼす影響は看過できない。計画地は常磐道からゴルフ場境界まで75～175mしかなく、上記研究から健康に影響する排ガス汚染が予想される。これが学校建設地としてふさわしくない主たる理由である。現計画地に学校を建設するなら、上記の研究と同じ科学的レベルの環境アセスメントが必要である。]

また、高圧送電線下の電磁界が小児白血病を誘発するという海外の疫学研究が多く報告されているが、否定的な報告もあり、現在は確定していない（WHO ファクトシート 322 2007年6月）。それでも児童生徒の健康にかかわる問題には、「疑わしきは罰す」の姿勢で臨むべきと思うが、現プール予定地を学校建設地として選定した時には、医学専門家の意見を聞いたのであろうか？学校などの公共施設を建設する用地を選ぶときには、医学、環境科学などの専門的な見地からも検討することが必要ではないか。